



宮のおんがく会 vol.3 ～弦と歌の調べ～

2012.9.22(土) 開場18:30 開演19:00 富士宮市民文化会館大ホール

主催：宮のおんがく会実行委員会 後援：富士宮市教育委員会



ごあいさつ

今日は、「宮のおんがく会vol.3 ～弦と歌の調べ～」に御来場いただき、誠にありがとうございます。

このおんがく会は、財団法人富士宮市振興公社が指定管理者として管理運営する、富士宮市民文化会館を事務局とした「宮のおんがく会実行委員会」の主催で、地元出身の音楽家及び富士宮市を中心に活動する音楽家の皆さまに演奏の機会を、また市民の皆さまに、その鑑賞の機会を提供することにより、音楽を通じて地域文化の向上につなげていきたいという思いで企画しております。

今回のコンサートは、弦楽器を中心としたプログラムでお届けする～弦と歌の調べ～です。秋の夜長、弦楽器の美しい音色と澄んだ歌声で、心と体を癒していただけましたら幸いです。

最後になりましたが、開催にあたり御協力いただきました関係者の皆さまに心より感謝申し上げますとともに、これからも芸術文化が豊かに薫るような事業を企画してまいりますので、末永くよろしく願いいたします。

宮のおんがく会実行委員会委員長
財団法人富士宮市振興公社理事長
安倍雅史



「宮のおんがく会」開催に寄せて

市制施行70周年の記念すべき年に、宮のおんがく会vol.3が盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

この音楽会は、市の内外で活躍されている地元音楽家の皆様により、人々に感動と喜びを提供するコンサートとして開催されるもので、今年で3回目を迎えています。

私たちは、うれしい時、楽しい時、悲しい時、悩んだ時、ふと気づくと音楽に触れています。それは、音楽に、人々の心を豊かにする力、癒す力、強くする力があるからです。また、音楽は、子どもから大人まで誰もが気軽に楽しむことができ、同じ思いを共有できる最も身近な文化でもあります。

御来場の皆様におかれましては、この秋の夕べ、格調高く味わい深い演奏にじっと耳を傾け、感動とともに心満たされるひと時を過ごしていただけたら幸いです。

結びに、本日の開催に向けて御尽力いただいた宮のおんがく会実行委員会の皆様をはじめとする関係各位に心より御礼申し上げ、私の挨拶といたします。

富士宮市教育長 池谷眞徳

Program

〈第1部〉

I 弦楽合奏

メヌエット
ソナタ第1番ト長調

L・ボッケリーニ
G・ロッシーニ

II ソプラノ

浜辺の歌
中国地方の子守歌
歌劇「ラ・ボエーム」より
“あなたの愛の呼ぶ声に”
喜歌劇「こうもり」より

成田為三
日本古謡（山田耕筰 編曲）

G・プッチーニ

“侯爵様 あなたのようなお方は”

J・シュトラウス

以上4曲 編曲 白土文雄

Sop 百瀬美樹 Pf 塩川美香子 Vn 河村典子 Kb 白土文雄

休憩

〈第2部〉

III 弦楽5重奏

「新世界より」 第2楽章 “ラルゴ”

A・ドヴォルザーク
編曲 前田智子

Vn1 河村典子 Vn2 山田晴香 Vla 石井由理 Vc 土屋義昭 Kb 清祐介

IV ヴァイオリンとコントラバスのための

グラン・デュオ・コンチェルトンテ

G・ボッテシーニ

Vn 河村典子 Kb 白土文雄

宮のおんがく会ストリングオーケストラ

V ソプラノ

オンブラ・マイ・フ

G・ヘンデル

編曲 土屋義昭

メリー・ウィドウ・ワルツ

F・レハール

編曲 土屋義昭

Sop 百瀬美樹

宮のおんがく会ストリングオーケストラ

Program Note

I メヌエット

L・ボッケリーニ

ルイジ・ボッケリーニは、同時代の作曲家ハイドン、モーツァルトとは一線を画する形式に捕らわれない情緒的で優美な作風の作曲家である。彼によって作られた作品は、時に古めかしいバロック音楽のように、そして時に斬新なロマン派音楽のようにも響く。チェロのヴィルトゥオーゾでもあった彼は、自身の演奏のために多くのチェロ協奏曲や弦楽5重奏曲を数多く残しており、室内楽というジャンルを確立したという意味で、その功績は大きい。今回演奏する曲も、「ボッケリーニのメヌエット」として大変有名な作品であるが、実は弦楽5重奏曲ホ長調(G275)の第3楽章なのである。低弦の軽やかなリズムに導き出されるヴァイオリンの可愛らしくも憂いを含んだメロディーが特徴的な曲である。

ソナタ第1番ト長調

G・ロッシニ

オペラ作曲家、美食家として知られるロッシニが12歳のとき、パトロンであり友人、そしてアマチュアのコントラバス奏者でもあったアゴスティーノ・トリオッシの依頼により書き上げた作品。初演はトリオッシの別荘で行われた。ヴィオラは使用せず、第1ヴァイオリン、第2ヴァイオリン、チェロ、コントラバスという変則的な編成になっている。そのため、当時としては珍しく、チェロとコントラバスにそれぞれ独立した声部が与えられており、それにロッシニらしい技工的で華やかな2台のヴァイオリンの旋律が加わる。また、各楽器にそれぞれ特色を活かしたメロディーが与えられており、普段は表に出てくることのないコントラバスの活躍までもが楽しめる作品となっている。

II 浜辺の歌

成田為三

1916年に作曲されたこの曲は、多くの人々に愛され歌われています。朝な夕なにひとり浜辺をさまよひ、目にうつり、耳に響き、肌に感じる浜辺の風情の中で、かつての出来事や、かつて出会った、また愛した人の思い出をかみしめている歌です。

中国地方の子守歌

(岡山地方民謡・山田耕筰編曲)

原曲は、岡山や広島地方で古くからうたわれていた子守歌です。この地に生まれた声楽家の上野耐之が幼時の記憶をたどってうたった原曲を、山田耕筰が採譜、編曲したものです。

歌劇「ラ・ボエーム」よりミミのアリア

“あなたの愛の呼ぶ声に”

G・プッチーニ

この歌劇は、「蝶々夫人」「トスカ」と並ぶ、プッチーニの3大歌劇の一つです。第1幕で詩人のロドルフォと知り合ったお針子のミミは、彼と共に愛に満ちた生活を送り始めます。しかし収入の道の途絶えたロドルフォは、胸を病んだミミに十分な治療をしてあげられないのを苦にして、彼女と別れようとしています。真意を知らず思い悩んだミミは、ロドルフォの親友マルチェロに相談します。ロドルフォが、ミミを愛するがゆえに別れを決意し、彼もまた苦しみにさいなまれていることを聞き、ミミは別れを決心します。

「2人が知り合ったクリスマス・イヴの晩に買ってくれた帽子を、いつまでも記念に取っておいてね。そしてお互いに恨むことなしに別れましょう。」心からの愛に満ち溢れた思いを、甘く切ないメロディーにのせて歌います。

喜歌劇「こうもり」よりアデーレのアリア

“侯爵様、あなたのようなお方は”

J・シュトラウス

19世紀ウィーンの大作曲家、ヨハン・シュトラウスによるオペレッタの傑作「こうもり」の物語は、仮面舞踏会の帰りに酔いつぶれて笑い者になったファルケ博士が、自分を路上に置き去りにした友人アイゼンシュタインに仕返しをするまでが描かれています。そこにアイゼンシュタインの妻や女中のアデーレが絡み、大騒ぎになりますが、最後はすべてを「シャンパンの泡のせい」にしてハッピーエンドとなります。

この曲は、夜会に内緒でやってきたアデーレが、主人のアイゼンシュタインに「家の女中に似ている！」と言われ、「こんなに美しく、優雅な淑女がどうして女中なの？」と皆の前でアイゼンシュタインを笑い者にします。

Ⅲ「新世界より」 第2楽章 “ラルゴ”

A・ドヴォルザーク

ボヘミア(現チェコ)に生まれたアントニン・ドヴォルザークは、19世紀頃よりチェコ音楽界に高まってきた民族主義の中で、自国の民謡や踊りと西欧の伝統的な作曲技法とを融合させ、国民楽派を確立させた一人として、国内はもとより、ヨーロッパ中で人気を博していた。その名声は新大陸アメリカにまで届き、1892年、彼はニューヨーク・ナショナル音楽院の院長に就任することとなり、翌93年には交響曲第9番「新世界より」が完成するのである。

渡米後最初に書かれたこの作品は、故郷ボヘミアへの強い愛国心とアメリカで聞いた土着の音楽に感じた精神を、西欧の古典的な作曲技法で融合させたドヴォルザークならではの傑作である。中でも第2楽章の主題は非常に有名であり、彼の死後様々な歌詞を付けられ、『家路』『遠き山に日は落ちて』などの愛唱歌に編曲され、今日に至るまで世界中で愛され続けている。「新世界より」の標題が示すように、新天地アメリカから故郷ボヘミアへの望郷の歌は、祖国を、家族を、そして音楽を愛したドヴォルザークのめくもりに溢れている。本日は、弦楽5重奏でお楽しみください。

Ⅳヴァイオリンとコントラバスのための

グラン・デュオ・コンチェルタンテ

G・ボッテシーニ

パガニーニと並び称されるほどのコントラバスのヴィルトゥオーゾであったジョバンニ・ボッテシーニは、20代の後半から作曲と指揮に尽力し、数本のオペラと、数多くのコントラバスのための楽曲を残した。彼の作曲したオペラは、台本に恵まれなかったこともあり、今日演奏されることはほとんどないが、指揮者としても有能だった彼は、ヴェルディのオペラ「アイーダ」の初演された折の指揮者を務めている。

本作品は、オーケストラで最高音域を担当するヴァイオリンと、最低音域を担当するコントラバスのデュオであるが、元々はコントラバスのデュオとして書かれた物を、後にボッテシーニ自身がヴァイオリンとコントラバスのデュオに書き直し、世に広まったものである。両楽器の超絶技巧も去ることながら、イタリアオペラのような美しい旋律も楽しめる、ボッテシーニの卓越したセンスを伺わせる作品となっている。

Ⅴオンブラ・マイ・フ

G・ヘンデル 編曲 土屋義昭

ヘンデルは、ドイツで生まれ、イギリスで活躍した作曲家です。約40曲にもものほるオペラを作曲しました。この曲は、歌劇「セルセ」の第1幕、ペルシャ王セルセによって歌われ、プラタナスの美しさをたたえています。本日は、アレンジされた弦楽合奏と共にお楽しみください。

メリー・ウィドウ・ワルツ

F・レハール 編曲 土屋義昭

オペレッタ「メリー・ウィドウ」第3幕、ポンテヴェドロ国大使館の場で、祖国のため、自分のため、結婚を決心したダニロとハンナによって歌われる美しい2重唱です。本日は、ソプラノ用にアレンジし、弦楽合奏の伴奏でお楽しみください。

Profile



河村典子(ヴァイオリン)

桐朋学園音楽学部を経て、西ドイツ政府給費留学生として渡独ミュンヘン、エッセン、ベルリンの名音楽大学にて研さんを積む。1979年よりスイス在住、チューリッヒオペラハウス第二ヴァイオリン首席として1984年から1992年まで在籍、その後フリーとなる。チューリッヒを拠点に音楽企画・制作の「オフィスN」を立ち上げソロ、室内楽の演奏録音活動、室内楽ワークショップなどの指導活動、CDやコンサートのプロデュース活動を積極的に行う。NHK・FM「ベストオブクラシック」「名曲リサイタル」NHK・BS第2「クラシック倶楽部」愛・地球博スイス館コンサート出演。国際交流基金の助成を受け2008年5月、谷川俊太郎氏の朗読とともにスイス・スロヴェニアツアー、2009年9月メコン・日本交流年認定事業ヴェトナム・ツアーを実現する。2005年秋に、バッハの無伴奏プログラム「ヴァイオリンひとり」で行脚を始め、2012年元旦通算100回を達成。社会起業家フォーラム・パートナー、シンクタンク・ソフィアバンク・パートナー。2010年秋より、富士宮市民となる。



白土文雄(コントラバス)

ミュンヘン音楽大学マイスターディプロム取得後、1978年チューリッヒ・トーンハレオーケストラに首席奏者として入団、1990年同オーケストラを退団以降、貴重な独奏、室内楽奏者として幅広く活躍する。世界各国の数多くの作曲家が白土文雄のためにコントラバスを加えた室内楽作品を書いており、近年はみずからコントラバスのための編曲・教則本の編集を行っている。オーケストリオ、リ・アルティジャーニなどの創立メンバー。桐朋・富山アカデミー特別講師としての後進の指導、2004年より河村典子とともに各地で室内楽ワークショップを開催、レソナンツ室内楽アカデミー主宰。2009年9月、国際交流基金の助成を受け、外務省メコン・日本交流年事業として弦楽合奏団「アンサンブル・レソナンツ」ヴェトナム・ツアーを監修。スイス在住。ジュネーヴ国際音楽コンクールコントラバス部門審査員。



百瀬美樹(ソプラノ)

静岡県立清水南高芸術科を経て、東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。芸術工房演奏家協会新人オーディション合格、同協会主催新人演奏会に出演。第一回「静岡の名手たち」オーディション合格。静岡音楽館AOI開館10周年記念企画事業にて、岩村力指揮、静岡交響楽団と共演。トーマ・ポペスク特別公開講座を受講、修了演奏会出演。ベルゴレージ〈スターバト・マーテル〉、ブラームス〈ドイツ・レクイエム〉、ヘンデル〈メサイア〉、シューベルト〈ミサ曲〉などのソリストを務める。2003年富士宮市民文化会館大ホールにて、「わかふじ国体」イメージソング〈夢の翼〉を歌唱。2008年、演奏グループ「アコール」を結成。ホールでの定期コンサートのほか、小学校、高校などでも演奏活動を展開。現在、静岡県立清水南高芸術科、富士宮東高芸術コース各非常勤講師。静岡県オペラ協会会員。静岡県学生音楽コンクール審査員。宮のおんがく会実行委員。富士宮市在住。



塩川美香子(ピアノ)

桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻卒業。米国ボストンにあるニューイングランド音楽院修士課程修了。ロンジー音楽院アーティスト・ディプロマコース修了。常葉学園短期大学音楽科講師及び常葉学園橋高等学校音楽科講師を経て現在に至る。1981年、1984年、1987年に富士宮市民文化会館大ホールにてソロリサイタルを開催。1991年には大ホールにおいて富士宮室内オーケストラとモーツァルトピアノ協奏曲を協演、好評を博す。富士宮市民文化会館、富士ロゼシアター又、静岡等でソロ活動の他、多数の演奏会に出演している。フジゾリステン、富士クラシック協会会員。宮のおんがく会実行委員。富士宮市在住。



宮のおんがく会ストリングオーケストラ

土屋一恵（ヴァイオリン）

武蔵野音楽大学音楽学部ヴァイオリン科卒業。末永富貴子・佐々木茂生の各氏に師事。武蔵野音楽大学附属音楽教室ヴァイオリン講師を経て現在、常葉学園大学附属橘小学校オーケストラ学習科講師。日本弦楽指導者協会会員。富士宮室内オーケストラコンサートマスター。宮のおんがく会実行委員。富士宮市在住。

田島優子（ヴァイオリン）

桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部を経て同大学研究科修了。小澤征爾オペラプロジェクト、サイトウキネン“若い音楽家の為の室内楽勉強会”に参加するなど研鑽を積む。プロジェクト“Cuore”を立ち上げ、東京・富士・京都などでのコンサートプロデュースに好評を得る。現在、コンサート活動を行うかたわら、富士、東京にて後進の指導にあたる。富士市出身。

山田晴香（ヴァイオリン）

静岡大学教育学部音楽科卒業。荻生昌平、土屋一恵、外岡協子の各氏に師事。室内楽を白土文雄、河村典子の各氏に師事。現在、常葉学園大学附属橘小学校オーケストラ学習科講師。富士宮室内オーケストラ第2ヴァイオリン主席。富士宮市在住。

西川奈穂（ヴァイオリン）

常葉学園短期大学専攻科音楽専攻修了。浅岡幸男、樽井直美、竹内英美子、中塚和良の各氏に師事。2010、2011、2012年とロシアターにおいてリサイタルを開催。現在、八十の会、Camarades Musicauxに所属。富士ジュニアオーケストラ、かやはら音楽教室等で後進の指導にあたる。富士宮市在住。

八塚千陽（ヴァイオリン）

東邦音楽大学音楽学部卒業。土屋一恵、蓬田清重、天満敦子の各氏に師事。現在、地元富士宮を中心に各種演奏活動を行っている。富士宮室内オーケストラ団員。富士宮市在住。

石井由理（ヴィオラ）

同志社女子大学学芸学部音楽学科卒業。土屋一恵、蓬田清重、亀田美佐子の各氏に師事。現在、常葉学園大学附属橘小学校オーケストラ学習科講師。地元を拠点にコンサート活動を行うかたわら後進の指導にあたる。富士宮室内オーケストラヴィオラ主席。富士市在住。

齋藤智恵（ヴィオラ）

昭和音楽大学短期大学部器楽科卒業、同大学研究生修了。土屋一恵、井出尚子、川上久雄、鈴木綾子の各氏に師事。2004年にVn,Fl,PfユニットTrio The Gracesを結成し、演奏活動を行うかたわら後進の指導にあたる。富士宮室内オーケストラ団員。富士宮市在住。

土屋義昭（チェロ）

武蔵野音楽大学音楽学部チェロ科卒業。中島方、菊地俊一の各氏に師事。富士宮市内の中学校音楽教師として在職するかたわら1983年富士宮室内オーケストラを立ち上げ音楽監督として現在に至る。また弦楽四重奏やピアノトリオなど主に室内楽の演奏を中心に地域の音楽活動にいそしむ。富士宮市在住。

深澤貴美子（チェロ）

静岡大学教育学部音楽科卒業。松下允彦、井上頼豊、佐野穰一の各氏に師事。現在、弦ユニットを組み公民館や小学校などで演奏活動を行っている。富士宮室内オーケストラ団長。富士宮市在住。

清祐介（コントラバス）

桐朋学園大学音楽学部カレッジディプロマコース修了。山西貴久、堤俊作、白土文雄の各氏に師事。2011年からチェコフィルハーモニー管弦楽団コントラバス奏者Jiri Rohan氏のコントラバスカルテットに参加。現在フリーの奏者として演奏活動を続けながら後進の指導にあたる。富士宮室内オーケストラコントラバス奏者。富士宮市在住。

ご案内

ご存知ですか？ピアノ<生命>について！！



ピアノにとって、よい音色を保つには、定期健診が必要です。
ピアノの健康診断はおまかせください。
お宅のピアノホームドクターを承ります。

ピアノの調律・整調・整音クリーニングをご希望の方は、ご連絡ください。
信用・親切・信頼・良心的価格で承ります。その他

コンサートの企画及び実施

演奏者派遣

音楽指導者派遣(いずれも音楽大学卒業生)

音楽教室・ピアノ調律養成塾開設

各種楽器販売

詳細は下記までお問い合わせください。

社団法人 日本ピアノ調律師協会会員

辻村・音楽企画店

代表 辻村 晴男

富士市津田町24-4

Tel Fax 0545-52-5513